

2023年度 第3回神戸市障害者施策推進協議会 議事要旨

日時：2023年11月24日（金）14:00～16:00

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

○議題

(1) 第7期神戸市障がい福祉計画・第3期神戸市障がい児福祉計画 素案について（資料5）

→事務局側より説明後、協議会で承認

【主な意見】

- ・神戸市は地域生活支援拠点の整備が進んでいるが、今後は、地域生活支援拠点が役割を達成できているか1つずつ評価・点検し、親なきあとに地域生活の拠点となるようにしていただきたい。
- ・日中サービス支援型のグループホームは全国的に、重度の方を断ったり、対応が不十分といったケースが見られる。増やすだけでなく、質の担保もお願いしたい。
- ・日中サービス支援型のグループホームは職員定数が足りておらず、十分なフォローアップができていない。報酬単価、人員配置も課題である。
- ・ヘルパーの人材を増やすには報酬改定が必要。国が検討しているが、市から国へアプローチも必要。
- ・計画相談について、セルフプランも認めてもらいたい。自分で生活をプランニングする人もいる。
- ・セルフプランは本人ではなく家族や事業所が作っているという実態があり、そこが問題だと思う。
- ・神戸市では医療的ケア児等コーディネーターの勉強会や再研修等、進んだ取り組みができていますが、重症心身障がい児に関してはネットワークができていない。また、医療的ケアのアドバイスをする嘱託医も十分に機能していない。市が主体となってネットワークの構築、嘱託医の実態把握に取り組んでいただきたい。
- ・重度心身障がい児の放課後等デイサービスの事業所が増えないのは、ニーズにマッチする看護師を探すのが難しいことが要因。
- ・市街地だけでなく郊外でもグループホームは不足している。施設建設の補助や報酬改定について、強く国に言っていただきたい。
- ・地域共生社会の実現のために市が進む方向は、社会資源を増やし、どこで誰と暮らすのか、自らの意思で選択できるようにしていくことだと思う。
- ・精神障害者のグループホームは中々広がっていない。グループホームか単身者向け住居の選択ができる市営住宅を拡充してもらいたい。
- ・虐待防止については今後も議論が必要。原因として人員確保の問題もあると思うので、今後の計画ではその点も考えてもらいたい。

○報告

(1) 「児童発達支援・放課後等デイサービスに関するアンケート」調査結果（資料2）

(2) 神戸市発達障害児（者）支援地域協議会からの意見（資料3）

(3) 神戸市療育ネットワーク会議「医療的ケア児の支援施策検討会議」からの意見（資料4）

→事務局より説明

【主な意見】

(1) 「児童発達支援・放課後等デイサービスに関するアンケート」調査結果（資料2）

- ・障害児相談支援制度を知らなかったという回答が5割以上もあり、多すぎるのでは。政令市の中でも制度の利用者率が低いと言われている中、どのように対応するのか。
- ・保育園や学校、医療など市民が最初にコンタクトを持つ専門職から相談支援制度を勧めることができるようになるとよい。
- ・相談支援事業を利用しない理由として、放課後等デイサービスだけ利用している、3か月に1回のモニタリングが困るといった声も聞く。
- ・放課後等デイサービス（就学児）の回答数が前回調査から半数程になっている。この回答率では、算出された数字が参考になるのか疑問がある。

(2) 神戸市発達障害児（者）支援地域協議会からの意見（資料3）

- ・発達障害者の避難については、事前に親と本人が場所を確認しておく必要がある。また、避難所の職員含め、日頃の地域住民との付き合いも必要。
- ・支援者に普段から緊急時の避難について話題にしてもらい、本人に意識を持ってもらうことも大事。

(3) 神戸市療育ネットワーク会議「医療的ケア児の支援施策検討会議」からの意見（資料4）

- ・医療的ケア児等コーディネーターが各区に配置されているが、これまでどのような形で関係機関と連携してきたのか。今後どのように連携強化を図るのか。
- ・医療的ケア児の対応について、コーディネーターがコーディネート事業所に相談するのはハードルが高い。連携強化のためには、身近に相談できる場所が必要。